

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-163	A-169	14-034	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)			
Alcohol consumption and prevalence of human papillomavirus (HPV) infection among US men in the HPV in Men (HIM) study. HPV in Men (HIM) 研究における 飲酒とアメリカ人男性におけるヒトパピローマウイルス感染率			
執筆者			
Schabath MB, Thompson ZJ, Egan KM, Torres BN, Nguyen A, Papenfuss MR, Abrahamsen ME, Giuliano AR.			
掲載誌			
Sex Transm Infect. 2014 Oct 2. doi:pii: sextrans-2013-051422.			
キーワード			PMID
疫学 (一般)、ヒトパピローマウイルス、欧米人男性			25278617
要 旨			
背景と目的： 中等量の飲酒は、ウイルス感染に対する生体防御に悪影響を及ぼす可能性がある。この横断研究の目的は、the HPV in Men study (以下 HIM 研究) に参加したアメリカ人男性における飲酒とヒトパピローマウイルス (以下 HPV) 感染の関連性を、食事摂取頻度調査票 (FFQ) より測定した飲酒量を用いて評価することである。			
方法： HIM 研究は、HPV 感染の自然歴に関する前向き多国共同研究である。この報告では、我々は解析をアメリカのコホートからの男性 1,313 名に限定した。陰茎亀頭、陰茎体及び陰囊からのサンプルを用いて HPV の DNA 検査を実施した。自己記入による飲酒量より一日飲酒量(g)を算出した。飲酒量と HPV 感染の関連性の評価には多変量調整有病率比(mPRs)が用いられた。			
結果： 感染の有病率は、飲酒量による第 4 四分位の (最も飲酒量が多い) 男性において有意に高値であった。多変量モデルでは、飲酒量の最も多い同群が、すべての HPV タイプ (mPR=1.13、95%信頼区間:1.00~1.27) でも、発がん性のある HPV タイプ (mPR=1.35、95%信頼区間:1.08~1.68) でも有病率比の増加と有意な関連が明らかになった。最飲酒群は、性的パートナー数、また過去喫煙者以外の非喫煙者と現在喫煙者においても HPV 感染の有病リスク比の増加と関連していた。			
結論： これらの結果は多量飲酒が男性において HPV に感染するリスクの増加と関連していることを示唆した。生殖器 HPV 感染において飲酒が生物学的に同様な役割を果たすかについては、特に男性においては限られた疫学データが存在するのみである。			